

消防年報

平成27年版

第60号



シンボルマーク 「ファイ太くん」

瀬戸市消防本部

は じ め に

平成26年は自然災害が多発した年で、7月9日に台風8号による「長野県南木曾町土石流災害」、8月20日に豪雨による「広島市北部土砂災害」、また、9月27日には戦後最悪の火山災害となった「御嶽山の噴火災害」が発生するなど甚大な被害とともに多くの尊い人命が失われました。

消防には、地域の安全安心を守ることに加え、これら大規模・広域災害や特殊災害に対する地域を越えた応援及び受援体制の確立が求められています。

この年報は、平成27年4月1日現在における消防体制及び平成26年中の災害状況等を収録し、今後の消防行政の効率的な運営と消防力の強化に資するとともに、消防事情を一般に紹介することを目的に編集したものです。

本市はこれからも、消防力及び消防体制の充実に努め、火災などの災害を未然に防止し、安全・安心が実感できるまちづくりに全力を挙げて取り組んでまいります。

消防関係者はもとより、この年報を広く活用いただければ幸いに存じます。

平成27年8月

瀬戸市消防本部





一 目 統 計



平成27年4月1日現在

面積・人口等 自然環境	面積	人口	世帯	気象(H26年中) P48
				
	111.40 km ²	131,269 人	53,928 世帯	年平均気温 15.5℃ 年平均湿度 64.9% 年間降水量 1,329 mm

消 防 予 算 構 成 人 員	消防予算 P1	署所数 P5	職員数 P6	団員数 P7
				
	12億9,981万円 市民一人当たり 9,902円	消防本部 1 消防署 1 分署 2	121人 (内女性2人)	253人 (内女性19人)

消 防 車 両 水 利	ポンプ車等 P5	特殊車両等 P5	救急車 P5	水利 P16
				
	タンク車3台 ポンプ車4台	はしご車等14台	高規格救急車4台	消火栓 2,990基 防火水槽等 524基 (その他の水利を含む)

災 害 件 数 (H26年中)	火災 P25	主な火災原因 P26	救急 P35	救助 P43
				
	43件 出火率3.3件/万人	放火・放火の疑い9件 たばこ8件 焼却炉4件	出動件数5,419件 搬送人員4,996人	出動件数71件 救助人員30人

予 防 消 防 関 係 団 体	防火対象物 P17	査察実施率 P18	危険物施設 P20	消防関係団体 P22-24
				危険物安全協会 352 会 員 自衛消防連絡協議会 16 事業所 婦人防火クラブ 11 クラブ 少年消防クラブ 30 クラブ 幼年消防クラブ 26 クラブ
	5,104 件	12.5%	製造所 1 件 貯蔵所 230 件 取扱所 112 件	

平成26年度目標達成指標

指標	単位	基準値	目標値	実績値
出火率	件	5.2	4.2	3.3

※ 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいう。

(P 2 5 参照)

指標	単位	基準値	目標値	実績値
救命率	%	20.0	24.0	50.0

※ 救命率とは、目撃のある突然心肺停止及びAEDの使用対象の救急患者のうち、1か月後に社会復帰できた割合をいう。

(P 4 1 参照)

指標	単位	基準値	目標値	実績値
消防団員数	人	228	264	253

(P 7 参照)

指標	単位	基準値	目標値	実績値
消防水利の充足率	%	98.0	98.4	98.5

(P 1 6 参照)

指標	単位	基準値	目標値	実績値
火災による損害額	千円	120,601	108,900	97,342

(P 2 5 参照)

平成26年度のトピックス

1 出火件数が過去最少に！！

平成26年中の出火件数は43件で、前年に比べ14件減少し、現在の方法で統計を取り始めた昭和46年以降、最も少ない出火件数となりました。

出火件数が最も多かったのは昭和48年の150件、平成に入ってから平成元年及び平成17年に97件の出火件数を記録しています。

なお、平成18年以降は住宅用火災警報器の義務化(新築住宅は平成18年6月1日、既存住宅は平成20年6月1日)の効果等もあり、出火件数は60件以下(平均53件)となっています。

2 地域防災担当制を導入

市長直轄組織防災課と消防本部が連携を強化し、地域防災力のより一層の向上を図ることを目的に消防職員による地域防災担当制を平成26年4月から導入しました。同担当制は、各連区に消防職員1名を配置し、地域防災訓練に対する助言や講話等を通して地元住民と顔が見える関係を構築し、地域防災力の向上に繋がっていかうとするものです。



3 LPガス消火体験装置を導入

ここ数年の初期消火訓練は、安全第一に標的を炎に見立て、水消火器を使用して実施していましたが、実際に炎を見、熱を感じて、より実践的な初期消火訓練を行うことができるようLPガス消火体験装置を導入しました。同装置は、炎の大きさを開閉バルブの操作で容易に変えることができ、安全かつリアルな初期消火体験が可能となったもので、平成26年8月24日(日)に下品野小学校で行われた瀬戸市総合防災訓練で初めて使用しました。



4 御嶽山の噴火災害に係る緊急消防援助隊派遣

平成26年9月27日に発生した御嶽山の噴火災害では、死者57人、行方不明者6人と戦後最悪の火山災害となりました。

消防庁長官からの応援出動の求めを受け、緊急消防援助隊愛知県隊として消防隊員5人を行方不明者の救出活動に派遣しました。



5 第37回児童防火作品コンクール表彰式を10月に実施

春の火災予防運動の関連行事として毎年2月に実施してきた児童防火作品コンクール表彰式を10月4日（土）に瀬戸蔵つばきホールにおいて実施しました。より多くの児童に参加してもらえるように防火作品の応募を夏休み期間に合わせて変更し、5・6年生を対象とした少年消防クラブ員防火作品展と一本化したもので、絵画327点、書道1,547点、総数1,874点（前回比403点増）の応募がありました。

応募作品のうち、優秀作品108点（特別賞8点、特選50点、入選50点）を瀬戸蔵市民ギャラリーに展示し、市民に火災予防を呼びかけました。



6 瀬戸市消防団道泉分団詰所の竣工

建替工事を進めてきた道泉分団詰所が完成し平成27年3月29日（日）に竣工式を行いました。新しい詰所は、鉄筋コンクリート造2階建て（延床面積約177㎡）で、平常時でも地域防災に取り組むことができる多目的会議室や非常電源、非常照明設備、雨水タンクなどの地域防災拠点機能を備えています。

瀬戸染付焼の技法を生み出した磁祖加藤民吉ゆかりの地であることにちなみ、青と白の格子模様や消防団のシンボルである法被（はっぴ）や纏（まとい）等のデザインを染付焼で描いた陶板を外観に採用しました。



目 次

【第1編】消防情勢（P1～10）

・5年間の市当初予算等と消防費	1
・平成27年度一般会計当初予算額	1
・平成27年度消防費の市民負担額	1
・消防本部・消防署・消防団組織図	2
・消防本部消防課の事務分掌	3
・消防署の事務分掌	4
・消防力の整備指針と現有消防力	5
・消防職員数	6
・消防団員数	7
・消防職員・団員数の推移	7
・消防職員・団員の平均年齢の推移	7
・消防職員派遣教養科目別実施状況	8
・消防職員研修実施状況	8
・消防職員・団員公務災害等発生状況	8
・消防本部車両運用状況	9
・消防団活動状況	10

【第2編】消防施設（P11～16）

・消防庁舎等設置状況	11
・消防車両等配備状況	12
・主な消防機器保有状況	14
・水防用資機材備蓄状況	15
・消防水利設置状況	16

【第3編】予防（P17～24）

・連区別防火対象物状況	17
・中高層建築物・地階用途別状況	18
・査察実施率の推移	18
・防火管理者選任状況	19
・防火管理講習実施状況	19
・危険物施設等連区別設置状況	20
・危険物施設に関する申請等の件数	20
・危険物施設等の10年間の推移	21
・消防関係団体	
瀬戸市危険物安全協会	22
瀬戸市自衛消防連絡協議会	22
瀬戸市婦人消防隊連絡協議会	23
瀬戸市少年消防クラブ連絡協議会	23
瀬戸市幼年消防クラブ	24
防災会	24

【第4編】火災統計（P25～34）

・平成26年中の火災発生状況と前年との比較	25
・原因別・用途別火災状況	26
・初期消火実施状況調	26

・ 出火原因別（発火源・経過・着火物）火災発生件数	27
・ 署所別・連区別火災状況	28
・ 曜日別・月別火災状況	29
・ 天候別火災状況	29
・ 時間別火災状況	30
・ 10年間の火災状況	31
・ 10年間の出火件数と住宅火災件数及び損害額の推移	31
・ 10年間の住宅火災の状況	32
・ 10年間の住宅火災における出火原因別件数	32
・ 10年間の住宅火災における時間別死傷者数	33
・ 10年間の住宅火災における年齢別死傷者数	33
・ 10年間の主な火災	34

【第5編】救急・救助統計（P 35～44）

・ 事故種別救急出動件数及び搬送人員	35
・ 署所別救急出動件数	36
・ 連区別の老年人口率と救急搬送率	36
・ 曜日別・月別救急出動件数	37
・ 時間別救急出動件数	37
・ 傷病程度別搬送人員	38
・ 年齢区分別搬送人員	38
・ 急病にかかる疾病分類別搬送人員調	39
・ 事故種別医療機関別搬送人員調	39
・ 救急隊員の行った応急処置状況	40
・ 応急手当普及啓発実施状況	40
・ 救命率の推移	41
・ バイスタンダーCPR実施状況	41
・ 10年間の現場到着平均所要時間の推移	41
・ 10年間の救急出動件数	42
・ 急病・交通・一般負傷の出動件数10年間の推移	42
・ 事故別救助出動状況	43
・ 連区別救助出動件数	43
・ 発生場所別救助人員	44
・ 10年間の救助出動件数	44

【第6編】通信・気象（P 45～48）

・ 消防指令センターの主な施設状況	45
・ 月別119番受信状況（受信時の種別）	45
・ 無線施設状況	46
・ 月別気象状況	48
・ 天候別日数調・月別気温状況・月別湿度状況	48

【第7編】資料（P 49～53）

・ 消防本部の沿革	49
・ 消防相互応援協定	53

市 勢 概 要

瀬戸市は、中部経済圏の中心地である名古屋市の中心から北東約20 kmに位置し、東西12.8 km、南北13.6 kmのほぼ円形を示し、面積111.40 km²の行政区域を有しており、緑豊かなまちです。

瀬戸といえば、やきものまち。その代名詞となる「せともの」には、1,300年の歴史と伝統が息づいています。

本市の都市戦略の要となるのが「せと・まるっとミュージアム」であり、国際博覧会で芽吹いた市民の力が一層発揮できる舞台づくりに取り組み、人々が集い、交流し、学ぶことにより、躍動感あるまちづくりを市民の皆さんと一緒に進めています。

年別 \ 項目	変 遷	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯
昭和 4 年	市制施行	28.01	31,276	6,916
昭和26年	水野村合併	50.67	54,779	11,670
昭和30年	幡山村合併	71.36	64,681	13,588
昭和34年	品野町合併	110.34	79,449	16,636
平成27年	4月1日現在	111.40	131,269	53,928



※ 「おもてなしのこころ」にあふれた交流盛んなまちを象徴するシンボルマークとして平成13年度に公募・決定しました。『まるっと』とは「全部、まるごと」を意味するこの地方のことばです。